

Laser Caddie GL04を取り上げていただきました。



今年のトレンド

早いもので今年も折り返し地点を過ぎました。改めて振り返ってみると、今年は珍しくレーザー距離計のテストや執筆、撮影が多かった印象が強い。そこでは「軽量、コンパクト」という一つのトレンドを感じたし、さらに、自分たちのブランドらしい「付加価値」を創出して差別化を図ろうと各社が必死に知恵を絞って開発・製品化していることも感じられた。

昨年まではウオッチ型GPS距離計の進化や普及により、距離計がゴルフプレイに欠かせないツールとな

イクメンメーカー・桑木野洋二の

14本の次は距離計測器。

り、一般ゴルファーに広がってきた。一方で、レーザー距離計は従前から競技志向のゴルファーに好まれていた。レーザー光を対象物に当ててその反射速度により距離を測るシンプルな仕組みゆえ、進化の方法は「速く、正確に」の追求に尽きると思っていた。価格レンジも幅広く「ピンキリ」で、ブランドینگが大切なカテゴリーだと捉えていた。



筆者は当初から、GPSとレーザーを併用する「距離計の二刀流使用」を推奨してきた。それぞれの特性や機能には得意不得意があるからだ。当然、メーカーにも得意分野があり、元々何の事業を展開している会社なのかによるところが大きい。光学機器メーカーのレーザー距離計、カーナビからのGPS距離計などだ。

そんな中、創業者が宇宙産業出身というキャッチーなワードで異彩を放ち、筆者がこの連載を始めた頃に勉強の参考になったメーカーがある。当時の社名がMASA、現在は製品ブランド名と同じ「グリーンオン株

第47回 LASER CADDIE GL04 (グリーンオン)

式会社」である。当時から、GPSだけでなく、補完衛星の「ブロンズ」や「みちびき」を採用し、高精度の計測を実現していた。

筆者が初めてプライベート用に自費で購入したGPS距離計は、MASAの「THE PREMIUM WATCH II」だった。本体価格2万5000円とお手頃で、「みちびきL15」に対応した誤差の少ない高性能と、きれいな液晶画面の満足度は高かった。それ以来、GPS距離計に特化した専門メーカーというイメージを持ち続けていた。そんな「グリーンオン」も今ではレーザー距離

計を展開し、二刀流の総合的な距離計メーカーに発展している。久しぶりにホームページを覗いてみると、ブランドアンバサダーの有村智恵プロは健在だった。当時、良い選手を広告に起用しているなあと感心したものだ。宇宙産業出身の創業者と好感度の高い有名女子プロとの組み合わせは、上手なブランドینگだった。



桑木野洋二 (くわきのようじ)

中央大学卒業後、本間ゴルフ、マルマンでマーケティングの責任者を歴任。ゴルフ業界における2大プレミアムブランド「MAJESTY」と「BERES」を支えてきた唯一のメーカー。2018年、マーケティングの何でも屋「KUWANT」を設立。愛称は育メン・メーカー「くわっきー」。

かり押さえていた。グローブサイズ23の筆者の手にきれいに収まり(98×57×32mm)で、軽量の目安である150gを切る142g。これなら腰からぶら下げなくてもポケットに入れてプレイ出来そう。黒ボディのシンプルデザインに白文字で「GREENON」のロゴ。質実剛健なデザインというところだろうか。テストラウンドは、ホームコースの富士笹坂36ゴルフクラブ。梅雨明け間近の曇天の日だった。こんな日は「赤文字表記」は嬉しい。これまで多くの機種を試してきたが、色が筆者の好みである。「GL04」は高透過赤緑OLEDを採用し、明るさを5段階に調整できる。一番明るい色にセット。線も太く鮮明でとても見やすい。



先発の強み、後発の挑戦 富士コースIN10番ホール、322ヤード、PAR4。右ラフのセカンド地点から「GL04」でピンフラッグを狙う。残り100ヤード強かなと思いつァインダーを覗くと、瞬時に107・8ヤードの表示。0・1ヤード刻みだ。中央の十字マークの下には「SCOPE」+2・0・2

段目は「ACTUAL」104・6の表示。推奨距離、傾斜、直線距離の順番だ。 ボタンを押したまま左右のバンカーに当てる。「スキャンモード」で、それぞれの距離を連続で瞬時に測定した。欲しい情報がすぐに手に入り、スムーズな所作でプレイに集中できる。ファインダーの左下には「マークの赤いボタンが付いている。競技の時はこのボタンを押して「スロップモード」を解除すれば良い。 高低差を加味した推奨距離に合った11番アイアンで自信を持って振り抜く。少しダフリ気味でピン右手前に乗った。 富士山に一番近いこのゴルフ場は、上手にレイアウトされ比較的フラットなホールが多い。その分、ホール間は木でセパレートされ、グリーンの間は木が生い茂っている。距離を測る際はグリーンを狙う時は計測ミスが起こりやすい。二刀流の筆者は「ピンサーチモード」をデフォルトにした。 ファインダーの右側にフラッグマーク。電源ボタンを押しながら、中央の十字マークをピンフラッグに当てる。すると緑色で四隅を囲った口

ツクアイコンが表示されて振動し、数字が固定された。計測完了。間違えて奥の木を計測するミスもなくなる。今ではレーザー距離計にピンサーチ機能は必須と言っている。 だが、「GL04」のロック、計測の速さには正直驚かされた。普通、ある程度はピンフラッグを十字マークで捉えないと正しい数字は出ないし、目視の感覚と合わずに、この数字じやないと思いつながら何度もボタンを押すのだが、「GL04」は十字マークがフラッグ付近に近づくと瞬時に「ロックオン」するのだ。 3ホール目に「あれ？速いな、まだきちんと捉えていないの」と気付いた。正確なデータ比較は難しそうだが、筆者がこれまで体感してきた中で最速の「ピンサーチ」だと感じた。良く出来ていると最も気に入った機能だった。 充電方式は、今どきのUSBタイプCを採用。満充電で約2万回の測定が可能なので、気付いた時に充電しておけば問題ない。 ラウンドを通して使ってみて、とにかくノンストレスだった。期待以上で実践向きな優れたレーザー距離計だった。太い赤文字表示は見やす

く、瞬時に計測してくれる。ピンフラッグの「ピンサーチモード」の速さには驚いた。テクノロジーの秘密を教えて欲しいくらいだ。 筆者が感じた「グリーンオン」Laser Caddie GL04の魅力と優れている点を3つ挙げてみる。 ・ピンサーチモードの速さ ・すべての機能が高水準 ・税込3万円以下のコスパの高さ プレイ中には、ほんのちよつとしたことでスムーズな所作ができなくなり、ストレスに感じることもある。計測に夢中になり、「PLAY FAST」のための距離計使用が、逆に周りに迷惑をかけることになったら本末転倒だ。「GL04」は、3点間距離計測のような新しい機能は採用されていないが、実際のラウンドで役に立つすべての機能が熟成されて、高い水準を維持している。長年、GPS距離計市場を牽引し、ゴルフファイト向き合ってきた「グリーンオン」らしい、まさに「優等生」のようなレーザー距離計だった。 「14本の次は距離計測器。ゴルフを楽しむ大切なゴルフ用品として、自分のスタイルにあったものを全てのゴルファーに愛用して欲しいと願う。